

# きずな

## 小牧市民病院の理念

- 1 安全で安心な病院
- 2 最新医学による高次医療病院
- 3 恕の心で患者さんに寄り添う病院

発行者／小牧市常普請一丁目20番地 小牧市民病院 院長 谷口健次 TEL(0568)76-4131  
<http://www.komakihp.gr.jp/>



写真：絵本の読み聞かせの様子



キミと一緒に、育っていききたい。  
**Komaki**

ニュース	● 院長よりご挨拶	P2
特集	● 病院機能評価受審2015	P3
健康教室	● 「臨床心理士ってどんな人？」	P4
各科だより	● 核医学(RI)検査について[放射線科]	P5
職場紹介	● 医療機器のスペシャリスト(臨床工学科)	P6
意見箱から	● 来院者の方からのご意見と回答	P7
	● 市民病院案内図 外来案内など	P8

# 院長より「挨拶」



2016年4月1日に院長を拝命いたしました谷口です。小牧市民病院は1963年に市民病院として発足し、1985年から1996年にかけての五期にわたる病院建築工事によりほぼ現在の形になりました。当院はその期間中に救命救急センターの指定を受けるなど、尾張北部医療圏の急性期病院として規模と機能を拡張してまいりました。1999年末永前院長の就任以降は、病院の充実期と位置付けて「医療の質の向上」を目指した取り組みを進め、2005年には地域がん診療連携拠点病院の指定を受けています。さらに、2012年に厚生労働省が急性期医療を提供してい

る1500余の病院を3群に分類した際には、I群(大学病院本院)に次ぐII群(大学病院本院に準じた機能を持つ病院)に認定され、2016年度も継続認定を受けられることができました。救命救急センターを持つ病院としての救急医療、がん診療連携拠点病院としてのがん診療、そして高次医療を提供することが当院の果たすべき大きな役割になっていると言えます。医療機関群II群の高機能を持った病院であることに職員一同誇りを感じつつ、今後もさらに医療の質を上げ、皆様に満足して頂けるような病院になるよう努力をしてまいりたいと考えています。

一方、施設・設備については、老朽化に伴う諸問題が顕在化してきました。建築後30年が経過して、面積の狭さや多人数病室による療養環境の低下が時代の要請に合わなくなってきました。さらには五期にわたる増築により、院内経路もわかりにくくなってきております。高度急性期医療への一層の注力が求められるものの医療機能の制約が問題となってきたため、2019年度の新病院開院を目指して、いよいよ今年度から新病院の建設が始まります。病院の機能を強化し、個室率を上げて4人床でもアメニティーの向上を図ることで療養環境を整備し、より時代

に合った高機能な病院、また利用者にとって優しい病院を目指しています。工事中はご迷惑をおかけすることになると思いますが、どうかご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

医療・介護の分野では、急速に進行する高齢化により急増する医療・介護の需要に対応するために、医療提供体制の再編、医療・介護の連携と地域包括ケアシステムの構築が急がれています。地域完結型の医療への取り組みが求められる中で、「病院は入院医療を、外来は診療所で」「病床は高度急性期、急性期、回復期、慢性期に分類」という方向性が明らかとなっています。当院は地域の基幹病院として急性期を主体とした診療を行っていくことになり、その実現のためには医療を提供する私どもと医療を受ける皆様との相互理解が不可欠になります。病診、病・病連携を進めるといって現在の医療システムの中で、患者さんにとってより良い選択ができますよう皆様とともに考えていきたいと思えます。これからも病院の理念のもと、地域にとってなくてはならない病院として、安全で安心な高次医療を提供してまいりますので、ご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

（1）病院機能評価について

病院の機能を第三者が評価し認定する取り組みは、米国で1951年に始められたといわれています。1990年代には全世界的に取り組みが広がるなかで、日本でも1997年から日本医療機能評価機構による病院機能評価が本格的に稼働しました。

その当時の日本では、まだガイドラインの多くが整備途上であり、医療の現場では長年にわたり積み上げられた経験に基づく医療が提供されてきました。それに対して、「病院の教科書」的な発想で院内のルールやマニュアルの整備を中心とした評価基準が作られ、良質で標準化された医療の提供に向けて有効に機能することが期待されました。近年では、評価内容を「医療安全」「感染管理」などに重点化し、診療のプロセスを中心に評価する形式に変わるとともに、認定を受けることが診療報酬へ反映される仕組みができてつづきます。

（2）小牧市民病院と病院機能評価

小牧市民病院は、2000年の初回審査以降、5年ごとに更新審査を受けてい

ます。昨年11月には4回目の審査を受けました。受審に当たっては、1年半前に申し込みを行い、そこから全病的な取り組みを行いました。多くの職種が共通の問題意識を持って改善活動に取り組むことは、近年重要視されているチーム医療を充実させることにもつながり、非常に有用であったと考えています。受審当日は、サーベイヤー（評価者）から様々な指摘も受けたものの、総合的にはいい評価をしていただき、2016年2月に更新認定を無事に受けることができました。

当院は、初回受審当時から病院機能評価について「第三者評価をきっかけにして病院をよくするために受審するのである」という共通認識を持ち続けています。一つの目標に向けて、病院職員が一丸となって取り組むことで、職種間のコミュニケーションがよくなり、職場が活性化されることを経験してきました。これからも病院機能の改善だけでなく、病院組織の活性化と医療の質に対する職員の意識の向上のために、この取り組みを継続していきたいと考えています。



近年、このころのケアの必要性を耳にされることも多いのではないのでしょうか。私たちは様々なこのころの悩みや苦しみを抱えながら、自分なりの方法や努力、周りの支えを得ながら解決して生きています。しかし、大きなストレスがある、耐え難い心の傷を受けた、大変な病気に罹患する、大切な人を亡くすなど、とてもつらい出来事を経験すると、自分の努力や気持ちの切り替え、周囲のサポートだけでは解決できない時があります。そんな時に、このころの悩みや苦しみが軽減できるようにサポートするのが臨床心理士です。

## ○臨床心理士ってなに？

臨床心理士はこのころのケアを専門とする職種のひとつです。このころの問題全般を研究し、解決するための理論や技法を考える臨床心理学を学んでいます。このころに悩みや苦しみを抱え、気持ちがつかい方のお話を伺います。このころに悩んでいる方やアドバイスをするのではなく、やり取りを通して考えをまとめ、気持ちがに気づき、このころの中を整理できるようにサポートをしていきます。



## ○緩和ケア科の臨床心理士

緩和ケア病棟と緩和ケアチーム、2つの場で活動しています。主な対象は、がん患者さんとそのご家族です。患者さんやご家族が抱えるつらさが少しでも和らぐように、様々な職種がかかわっています。その中で、不安、気持ちの落ち込みやつらさなど専門的にサポートをします。

不安で気持ちが落ち着かないという患者さんのお部屋に伺い、ゆっくりとお話を伺います。その対話の中で患者さん自身が何を不安と感じるのか気づき、考えや気持ちを整理し、対処方法を見つけ、不安が軽減できるようサポートします。

患者本人にどのように接していいのかわからないというご家族のお話を伺い、ご家族と患者さんのこれまでの関係性を考慮しながらどのようにかかわったらよいか、話し合い一緒に考えます。

子どもに病気をどのように伝えたらいいのだろうという患者さん、ご家族のお話を伺い、そのお子さんや状況に合わせて、どんな風に伝えるか、どんなサポート体制を作っていくか、話し合い一緒に考えます。状況に応じて、お子さんにも直接かかわりながらサポートします。

大切な人を亡くし、つらくてたまらな

いという方のお話を伺い、悲しみが少しずつ落ち着くと同時に日常生活を整えていけるようサポートします。

## ○小牧市民病院の臨床心理士

当院には精神科と緩和ケア科に臨床心理士が所属しています。活動の場は異なりますが、それぞれの領域で患者さんとご家族を支えていきたいと思っています。

小牧市民病院は、臨床研修病院として研修医の教育、育成に積極的に取り組んでいます。

### 臨床研修理念

「恕の心」を持って、謙虚、感謝の念を忘れずに、プライマリ・ケアの診療が出来る医療人を育成します。

### 臨床研修の基本方針

- (1) 医療の本質の「仁」と「尽」を理解し、人格の涵养に努め、患者・家族中心の医療を実践します。
- (2) チーム医療の重要性を理解し、他者からの意見を真摯に受け入れた医療を実践します。
- (3) 常に最先端の医学的知識の習得を心掛け、最善の医療の提供に努めます。
- (4) 地域医療に参画し、全人的医療を実践します。

臨床研修に関するご意見を、小牧市民病院臨床研修センターにお寄せください。

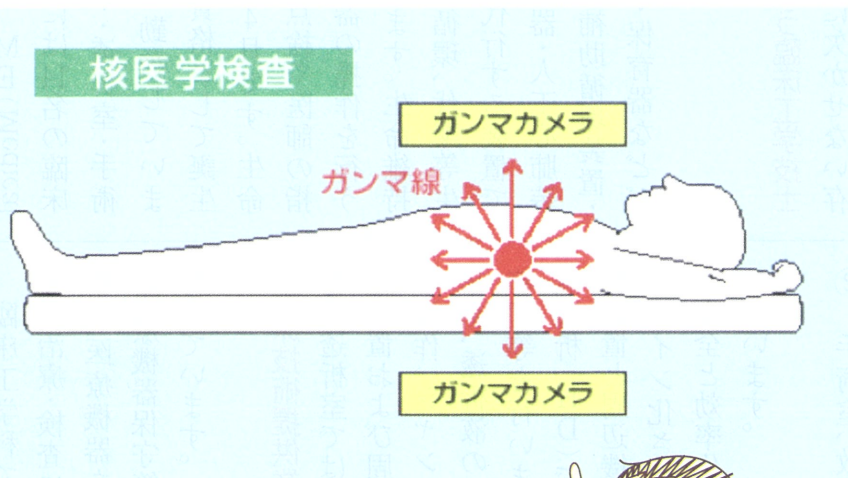
こんにちは、放射線科です。今回は、核医学(RI)検査について説明させていただきます。

核医学検査のRIとはRadio Isotope(ラジオアイソトープ)のことで、日本語では放射性同位元素といい、自ら放射線をだします。このRIを含んだ放射性医薬品を使用する検査は、病院によってラジオアイソトープ検査と呼んだり、その頭文字をとってRI検査、または核医学検査と呼ばれています。

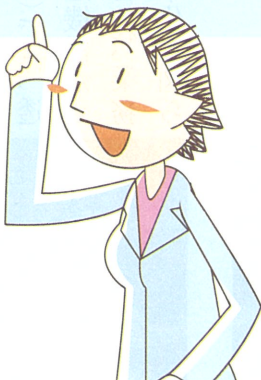
このRIを含んだ放射性医薬品を注射し、体内臓器に分布した放射線をガンマカメラという機械で画像化します。

検査を行う部位は、心臓、脳血流、腎臓、骨など様々で、脳血管や心疾患の診断など、目的に応じて多くの種類の検査があります。

核医学検査は簡単で安全な検査です。注射時以外は痛み、苦痛はありません。その後、カメラの下で撮像のためしばらく



安静にさせていただきます。検査により撮像までの待ち時間、撮像時間は異なります。核医学検査は、大きな病院では、日常的に行われている検査です。大学病院、公立病院などを中心に、約1200の病院で、年間140万件が行われています。安全で患者さんの苦痛の少ない検査として、心臓や脳など数多くの部位の診断に広く用いられています。



平成28年度

●●●●●● 病院の標語 ●●●●●●

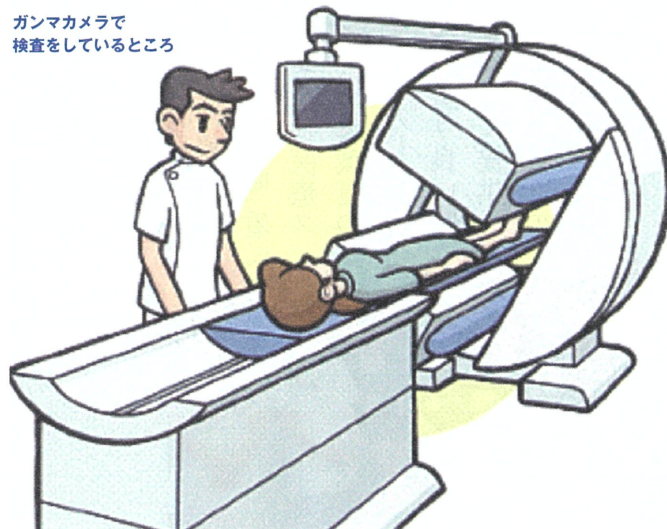
『恕の心』でより質の高い  
医療機関をめざそう

『恕の心』の対象は患者さんだけではなく、病院で共に働く職員間のちょっとした思いやり、心遣いが職場内のよい連携をもたらし、医療の質の向上につながります。あいさつ、約束時間の厳守、身だしなみなど、物事の基本から改めて取り組みましょう。

●●●●●● 病院の目標 ●●●●●●

1. 安全・安心で質の高い医療の提供
  - ・ 病院機能評価認定から継続した業務改善の取り組み
  - ・ 救急医療体制の充実
  - ・ 患者中心のチーム医療の推進
  - ・ 安全文化の醸成に向けた組織横断的な取り組みの推進
2. 患者サービスの向上
  - ・ 地域との連携・患者支援の推進
  - ・ 接遇マナーの向上
3. 拠点病院としての地域に向けた取り組み
4. 職員の能力向上のための研修教育の充実

ガンマカメラで検査をしているところ



# 医療機器のスペシャリスト (いのちのエンジニア)

【臨床工学科 神戸 幸司】

職場紹介

## 臨床工学技士とは

CEA (Clinical Engineer) / ME (Medical Engineer) と呼ばれ、当院には14名の臨床工学技士がMEセンター・透析室・手術室・救命救急センターに勤務しています。臨床工学技士が国家資格として誕生したのは、1988年の4月です。生命維持管理装置の保守管理点検や医師の指示のもとこれらの医療機器の操作を行うことを主な業務としています。生命維持管理装置とは、人の呼吸、循環、代謝等生命維持につながる機能を代行する装置です。具体的には、人工呼吸器・人工心臓装置・心臓ペースメーカー・補助循環装置・血液浄化装置・除細動器・保育器などがあります。

## 医療の安全を守る役割を担う臨床工学技士

医療機器は今日の医療に欠かせない存在であり、365日24時間、院内のあらゆる部署で数多く使用されています。私たちは、医療機器を安全かつ効率よく運用するにとどまらず、日々複雑多様化する臨床技術に対応し、「医療機器のスペシャリスト(いのちのエンジニア)」としてチーム医療に貢献しています。



## 臨床工学科の業務内容

臨床工学科では大きく分けて、患者さんの治療・検査に関わる「臨床技術提供業務」、医療機器を安全に使用するための「医療機器保守管理業務」の2つの業務を行っています。

### 「臨床技術提供業務」

① 透析室では血液浄化装置および周辺機器の操作、シャントへの穿刺、透析液の清浄化管理等を行います。血液透析(HD)では、透析装置と周辺機器がオンライン化され、業務の安全と効率化が図られています。

### ② 手術室、救命救急

センター等では、人工心臓(心臓血管外科手術での循環維持や循環補助)、循環器・呼吸器系の補助循環、ペースメーカー・植込み型除細動器の植込み手術におけるプログラマーの操作や各種計測



を行っています。また、ペースメーカー外来では作動チェックを行っています。

### 「医療機器保守管理業務」

MEセンターでは病院内の医療機器(心電図モニター、人工呼吸器、輸液ポンプ、シリンジポンプ、除細動器など)を一括管理し、貸出、修理、保守を行います。必要とする部署へ必要な台数を貸出すことにより、医療機器運用の効率化を図ります。また、故障や取り扱いなど、医療機器に関する窓口を中央管理業務に集約させております。専任スタッフが医療機器を管理運用することにより、医療機器の安全性と信頼性を維持します。

### 業務内容が多岐

にわたるため、複数の診療科の医師、看護師、その他医療スタッフ、事務職員の方々と協力し、患者さんへより良い医療を安全に提供できるように日々の業務に取り組んでおります。



当院では、意見箱を設置し、来院者の方からのご意見、ご要望に対してできる限りお応えできるよう努めています。そこで、お寄せいただいたご意見、ご要望の一部を紹介させていただきます。

## 《いただいたご意見》

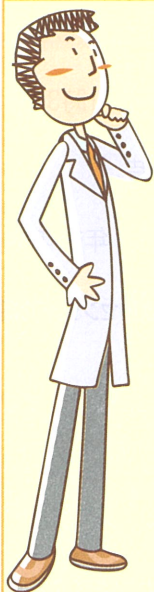
トイレにコートやかばん等を置く場所がなくて困ることがあります。  
また、トイレトペーパーの芯が取り付けにくいです。ワンタッチで取り付け可能なものにしてください。  
トイレトペーパーが無くて困ったこともあります。予備のものを置いてください。  
トイレトペーパーが破れて伸ばせず使用不可なものがあり困ります。使いやすいものにしてください。

## 《ご意見に対するお答え》

[病院総務課・新病院建設推進室]

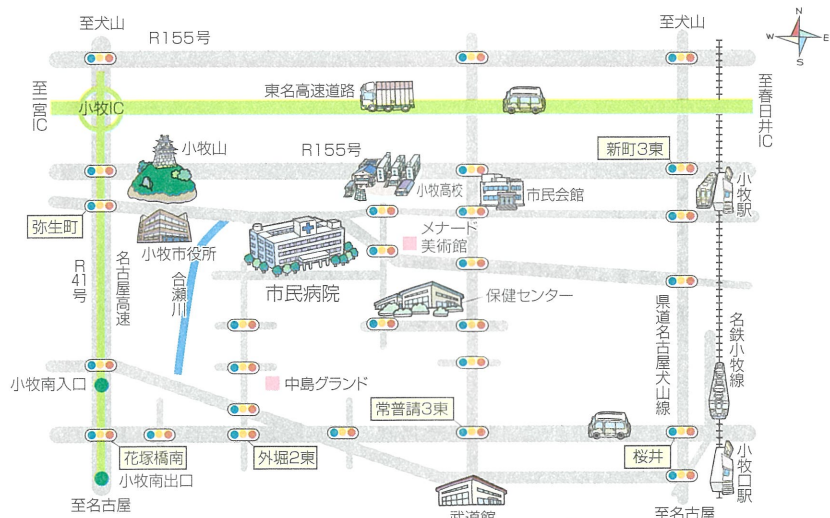
この度は、貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。  
まず、荷物を置く場所ですが、トイレ個室にお荷物をかけていただけようフックを取り付けてありますので、ご利用ください。  
次に、トイレトペーパーが取り替えにくいとのことで、大変ご不便をおかけしております。  
院内には片手で取り替え可能なペーパーホルダーも設置されており、全てのトイレへの設置について、新病院建設にあわせて行ってまいりますので、ご理解をお願いいたします。  
なお、トイレトペーパーの予備については、個室に設置するよう努めておりますが、再度清掃職員に予備を切らすことのないよう周知しました。  
トイレトペーパーの紙質については、他の施設でも使われている一般的なものを使用しております。患者さんそれぞれのお好みに合わせてご用意することは難しいため、ご理解をお願いいたします。  
今後も、患者さんに快適な入院生活を送っていただけるよう努めてまいりますので、お気づきの点がございましたら、お近くの職員にお話してください。

## 小牧市民病院の基本方針



- 1 尾張北部医療圏で救命救急センターを持つ病院として、地域の医療機関と連携して救急医療にあたります。
- 2 地域の基幹病院としてふさわしい高度な医療を提供するために努力し、医学および医療技術の研鑽に努めます。
- 3 尾張北部医療圏のがん診療連携拠点病院としてがん診療に力を注ぐとともに地域住民のがん診療、予防に関する知識の啓蒙に努めます。
- 4 地域に開かれた病院、信頼される病院を目指し、納得のいく医療を提供できるよう努めます。
- 5 研修医、医学部学生、看護学生、コメディカル、救急救命士などの教育を積極的に受け入れます。
- 6 人材育成に努め、働きがいのある病院を目指します。

## 市民病院案内図

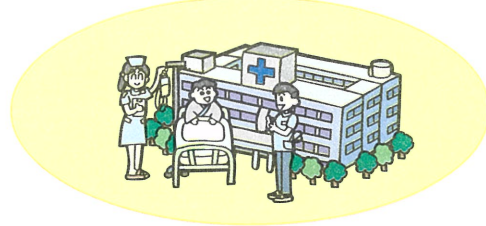
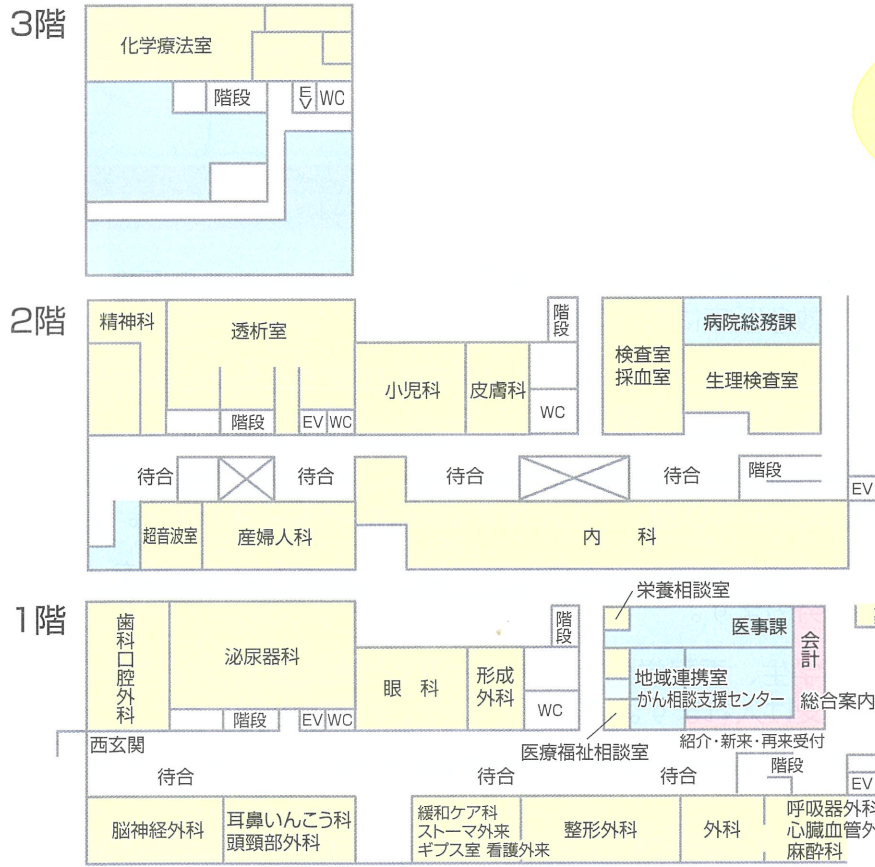


- 名鉄小牧駅から徒歩15分
- 名鉄小牧駅から岩倉駅行きバスで小牧市民病院前または小牧市民病院北下車3分
- 東名・名神高速道路小牧インターから車で5分
- 名古屋高速11号小牧線小牧南出口から車で5分

**■ 有料駐車場料金**  
 8時間までは100円  
 8時間を超えると1,000円加算  
 以降8時間を超えるごとに1,000円加算



## 外来案内



**〈診療受付時間〉**  
 午前8時30分～午前11時30分

**〈診療時間〉**  
 午前9時～午後5時

**〈休診日〉**  
 土曜・日曜・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)  
 ※急患の方は、救命救急センターで随時診療